

やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

No. 85 (2010. 4. 6)

事務局 TEL/FAX 0584-78-4119

大垣市田町1-20-1 近藤方

徳山ダムの岐阜県負担1157億円!!

3月19日の岐阜県議会土木委員会に、徳山ダム建設費の岐阜県負担分が出ました。

繰り返しますが、岐阜県は利水分をまるまる一般会計（河川課予算）から水資源機構に直払3341億円の徳山ダム建設事業費のうちの岐阜県負担分は利水（約8%）と治水（約12%＝直轄負担金）、併せて681億円。この多くが借金で、利息がついて実に1157億円。交付税措置を考慮した実施負担額は940億円で、利水の償還は2030年度まで、地方債などの償還（元金・利息）は2042年度まで行われる予定だとか。

H22年度予算案に計上された徳山ダム建設事業費支払い分は、実に53億7千万円。

H20年度当初予算の岐阜県の河川課の河川費は160億円。この中で、いわゆる河川改修関係（河川維持費、床上浸水対策緊急事業費など。ダムを除く）はざっと40億円弱だそうです。53億7千万円が、いかに大きいことか……。（次ページに続く）

市民による「豊かな海づくり大会」

2010年6月5日(土)、6日(日) 岐阜で

☆ 6月5日(土) 長良川国際会議場国際会議室

10時～ 基調講演

- ① 長良川の魚たち 向井貴彦・岐阜大准教授
- ② 河口堰と長良川 山内克典・岐阜大名譽教授
昼食休憩（朴葉鮓のお弁当・・・要 申込み）

13時～ シンポジウム 豊かな川から豊かな海へ

源流地域の林業家、上・中・下流部の漁業者、川魚専門店主などの生の声

17時～ 長良川国際会議場近くの河原でバーベキュー

会費1000円 飲み物別途（要 申込み）

☆ 6月6日(日) 川と親しむイベント（要 申込み） 集合＝長良橋北詰付近

10時～ ラフティング、川釣り、水辺の生き物観察

13時半～ 川原町を中心に岐阜のまちと歴史散歩

フシ企画：長良川河口堰観察会（河口堰をくぐる、へドロ堆積を確認する）

4月25日(日) 10時に船着き場に集合して乗船。参加費2000円。

関連企画：お話「長良川の魚たちは今」向井貴彦・岐阜大准教授

4月30日(金) 19時～ パタゴニア日本支社名古屋店（久屋大通）

上記の企画の詳細は未定も多く、今後具体化する協賛・関連企画もあります。

お申込み・お問合せは 武藤仁さん 090-1284-1298 へ



徳山ダムのおかげで、岐阜県は揖斐川流域も他の河川流域も「お金がないから治水対策は遅々として進まない」のです。脆弱な堤防は危ないと知りつつ放置されています。

岐阜県のH22年度の当初予算は約7500億円です。国のH22年度予算が約92兆円。53億7千万円を国の予算規模に同じ割合で換算すると実に約6600億円に当たります。

繰り返しますが、徳山ダムの水を使う予定もない（需要もない、取水等の専用施設計画が存在しない）岐阜県は利水分をまるまる一般会計（河川課予算）から水資源機構に直払いしています。将来にわたって大垣地区で徳山ダムの水の需要など発生するはずがありません。「一般会計（教育や福祉と同じお財布）から不要な水の代金を払う」という異常な状態が続きます。

岐阜県のHP ぎふポータル <http://www.pref.gifu.lg.jp/> >> 県政資料発表 >> 3月20日

徳山ダム建設事業に関する岐阜県の負担額について より 一部抜粋

< 負担金の仕組み >

種別	支払先	支払時期	財源	後年度負担
治水分	国 (直轄事業負担金)	毎年度 (S46~H23)	一般財源	(現年度で負担)
			地方債 →	元利償還(公債費) S51~H54
利水分 { 上水 工水 }	水資源機構	毎年度 (S51~H17)	地方債 →	元利償還(公債費) S53~H45
		ダム完成後	機構借入資金 →	元利償還(負担金) H20~H42

2 利息を含めた総負担額（1,157億円）について 内訳

		県負担額	負担額の内訳	
			県債償還金+各年度負担	水資源機構借入資金償還金
治	水	510億円	510億円	
利	上水	186億円		186億円
	工水	461億円	113億円	348億円
合	計	1,157億円	623億円	534億円

23億円×23年間

さらに利水償還金と本体の治水負担分の他に、巨額のダム管理費も支払っています（H20年度=4.2億円。H21年度=4.4億円（当初請求分）。

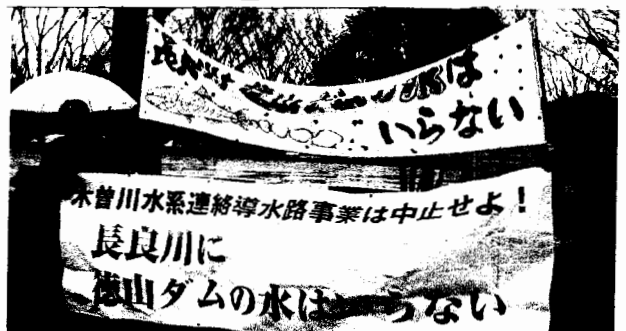
福祉にも教育にもお金が回らない・・・要らないものを要ると言い張って作ってしまうことの怖さがはっきりとあらわれてしまっています。

ダラダラと事業費を費やす「凍結」って一体何？

昨年9月25日の前原大臣宛要請の「続き」として、3月9日に中部地整前で要請行動を行いました。

1. 長良川市民学習会 と 導水路はいらない！ 愛知の会の共同要請

昨年9月25日の要請事項(※)を踏まえ、以下の要請をしました。



- ① 木曾川水系連絡導水路事業の来年度予算を執行しないこと。執行しない分については自治体への請求を見合わせる事。
- ② 速やかに事業の中止に向けた法的手続きに入ること（上記「3.」）
- ③ 木曾川水系における過去の河川政策の検証と今後の河川整備を、真に「住民参加」で行うこと（上記「4.」「5.」）

※1. 国土交通省および独立行政法人水資源機構における「木曾

川水系連絡導水路事業」にかかわるすべての業務をただちに停止し次の段階に入らないこと 2. 来年度予算ではこの事業の予算をゼロとすること（事業の凍結） 3. 速やかに事業の中止に向けた法的手続きに入ること（木曾川水系連絡導水路事業実施計画の廃止と木曾川水系水資源開発基本計画の変更、木曾川水系河川整備計画の変更） — 加えて— 4. この事業を中止する過程で、木曾川水系における過去の河川政策、特に長良川河口堰建設、徳山ダム建設の検証と評価を真摯に行うこと 5. 「同じ過ちを繰り返さない」ために、真に住民が参加し、真つ当な内容のある議論をする恒常的な「流域委員会」（河川法16条の2第3項に加えて、第4項の趣旨をもきちんと取り込んだもの）を、木曾川水系において設置すること。そのうえで、3で述べた「木曾川水系河川整備計画の変更」を行うこと

2. 長良川市民学習会としての長良川河口堰ゲート開放要請

”地元世論”は変化している

今年、岐阜県がわざわざ「豊かな海づくり大会 ぎふ長良川大会」を引っ張ってきたことに合わせて、地元新聞が「川」に関する連載特集記事を載せています。山と海を繋ぐ川を分断したダムや河口堰の問題がさまざまな角度から指摘されています（一部を別紙に）。梶原前知事の時代は、地元報道機関が徳山ダムや長良川河口堰に関する「問題」は深くは載せにくいような風潮がありました。しかし、時間とともに「問題」を事実で明らかになり、県民・市民の意識も変化してきました。

2月はじめ投開票の岐阜市長選の候補者アンケートでも、全候補が導水路にネガティブ、河口堰の開放の肯定的です。

徳山ダム建設中止を求める会としての3月30日声明

全国のダム事業が止まるか？という激震が走った昨秋以降、各地の県営ダムで「駆け込み本体着工契約」がなされました。国交省はこれを追認する補助金予算を組んでいます、「地域主権」の名目で！これでは「政権交代」そのものへの不信が広がってしまいます。

「凍結」の実をあげよ

まさにムダ！徳山ダム導水路（木曾川水系連絡導水路）事業の5億円予算

2010年3月30日

徳山ダム建設中止を求める会(代表 上田武夫)

3月29日、水資源機構は来年度の事業計画を公表した。徳山ダム導水路(木曾川水系連絡導水路)事業には「環境調査等の継続」として5億円を計上している。これは国の予算に対応したものである。

昨年秋、国交省は徳山ダム導水路(木曾川水系連絡導水路)事業を凍結するとし、予算の執行も停止した。が、「工事の新たな段階には入らない、これまでの継続」ということで新年度に5億円もの予算をつける、というのでは「凍結」という言葉は何なのか？

「コンクリートから人へ」というスローガンの下での「凍結」という言葉には「中止」の可能性を多く含まれている、というのが常識的な見方であろう。事業が中止されれば、建設を前提になされている「環境等の調査」は無意味となる。ムダそのものではないのか？

昨年8月末の総選挙で、国民は大胆な政策転換を選択したはずだ。現政権はその国民の選択に真正面から向き合い、政策転換のメッセージを明確にするべきである。

5億円予算の執行停止、及び中止のための法的手続き(諸計画の見直し)に早急に入ることを、国交大臣に強く求めたい。

財政破綻状態の岐阜県にも、この「5億円」に対応する直轄負担金の支払いが求められることになる。

(中略)

木曾川水系における過去の河川政策、特に長良川河口堰建設、徳山ダム建設は、明らかに誤りであった。この長良川河口堰と徳山ダムを「有効利用」しようという導水路事業は、この誤りを押し隠し、ムダにムダを重ねるものでしかない。「新たな段階の工事は進めない」とながら「現段階調査」の費用をダラダラと支出し続けるのではなく、一刻も早く正式に中止するべきである。

そして、その中止に至る過程を十分に透明なものとし、今後の日本の河川政策を本来あるべき姿へと転換していくきっかけになることを、心から期待する。

以上

愛知県導水路住民訴訟 (導水路はいらない！愛知の会 HP参照)

第3回口頭弁論 1月14日(木) 宮崎武雄さんが原告意見陳述をしました。

第4回口頭弁論 3月24日(水) 森下東治さんが原告意見陳述をしました。

被告側の現段階の主張は「愛知県が支払うのは適正な手続きに則って策定された計画に基づく事業の負担金なのだから中味を審理する必要はない、門前払いするべき」というものです。しかしその理屈は通るはずはありません。多分、国の方針を見定めるための被告側の「時間稼ぎ」なのでしょう。次回は6月2日(水) 15:30～

設楽ダム住民訴訟(第1審)結審 判決は6月30日

3月10日に結審しました。多くの原告側証人の尋問が行われた審理でした。この裁判の行方は導水路裁判にも大きく影響します。

新川決壊水害訴訟控訴審結審 判決は8月31日

3月23日に結審しました。1月に結審の予定でしたが延びました・・・被控訴人が最終段階で出してきた主張を徹底的に反論したから。新川決壊水害訴訟の原告団は、自らの大きな被害の体験から、高い意識・志をもって裁判に取り組んできました。河川管理者を免罪し続ける水害訴訟に一石を投じ、河川管理・河川行政のあり方を転換する一步となる判決となることを心から念じています。

恒例：徳山村キャンプ 8月28日(土)－29日(日)

「やめよ！徳山ダム」徳山ダム建設中止を求める会 代表：上田武夫

公式HP <http://www.tokuyamadam-chushi.net> 事務局長ブログ <http://tokuyamad.exblog.jp/>

編集責任：近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1

TEL/FAX 0584-78-4119

Email: k-yuriko@octn.jp

郵便振替：00800-7-31632

年会費 1000円

異常高水時、揖斐川町の徳山ダムの水を長良川や木曾川に放流する木曾川水系連絡導水路事業の推進について、来月7日投票の岐阜市長選挙に出馬予定の3



導水路事業 いずれも反対か慎重論
氏がいずれも反対か慎重な見解を持っていることが27日、市民団体「長良川市民学習会」のアンケートで分かった。

対象は二期目を指す現職の細江茂光氏... 野氏は「事業見直しを放流は認めない」。

同事業は総事業費八百九十億円を国と愛知県、岐阜、三重の三県、名古屋市が分担する計画で、民主党政権はダム事業見直しの一環で導水路事業も凍結を明言せず「市民と議論を」と話してきいた。

アユは語る

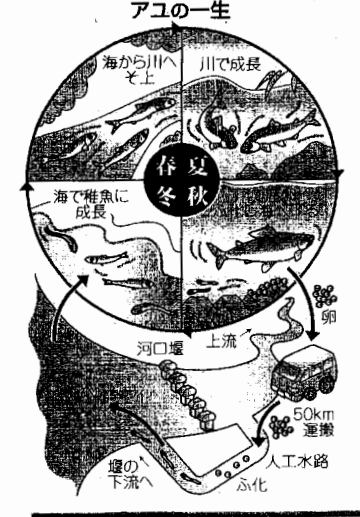
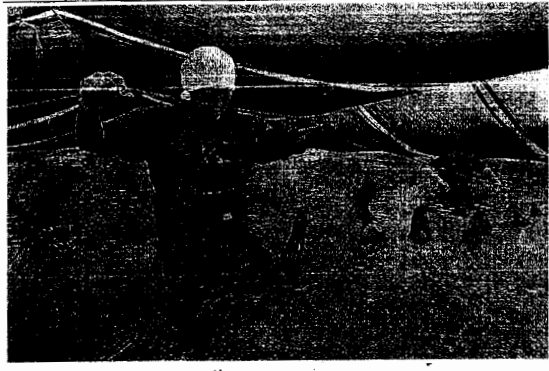
昨秋は六往復した。岐阜市から三重県桑名まで昨年十一月、同アユも、以前は岐阜市の長良川河口堰まで片道五十。ワゴンボツ採取。人海後、計口をつり下げておけ

人の手借り やっと河口へ
満ち引きが消えた。アユは泳ぐ。アユは泳ぐ。アユは泳ぐ。アユは泳ぐ。

よども流れ川下り阻む



アユの一生
川で成長 海から川へ上る 春 夏 秋 冬 海で稚魚に成長 河口堰 上流 人工水路 50km 運搬 海へ下流



長良川河口堰の試験開放を求めた要請書を山本紳一事務局長(左)に手渡す粕谷志郎岐阜大学教授(同2人目)＝県庁

県負担分681億円

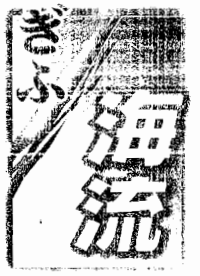
徳山ダム 水資源機構が揖斐川を。交付税措置を踏ま年度までに28.9%を町に建設した徳山ダム。えた実質負担額は九百四十億円。

木曾川導水路に5億円

水資源機構中部支社 木曾川水系連絡導水路(岐阜県)に三億円、(名古屋)は十九事業(岐阜県)には、日、二〇一〇年度の事業環境調査費などとして

10.03.30 中日新聞

10.01.28 中日新聞



第3章 断ち切られた川③

谷が多くて水が豊富 其の後は、技術革新な県内には計6基のダムと人口の伸び悩みで水(建設中を含む)が余りとなり、治水と濁り、保有数は全国9水対策がダム建設の目的の多さ、なぜなのか。的に加わったが、多くのダム建設は、戦前は建設の是非は検証さ主に発電を、高度経済 確の整備促進、雇用の成長期は発電と利水を 確保などの恩恵を得る目的とし、岐阜県はも のづくりが盛んな愛知 ために、山間地が検証 県や名古屋市の水がめ から目を背けてきた側として要求を下支えし 面も否めない。

ダム建設は地域を豊

山国・岐阜のダム



かにする。か。加茂郡 旧大野郡在川村の集落 移転に伴い当該地域が 八百津町の丸山ダム を水没させた御母衣夕 消滅。高山市高根町の (1955年完成)や、ム(61年完成)では、高根第二ダム(68年完

薄れる意義、検証されず

成)の建設では、中心 市の街地や優良農地を水 没させた結果、地域全 体が活力を失ったとも いる。

国内最大の貯水量を 持ち、2008年5月 に運用を始めた揖斐郡 揖斐川町の徳山ダム は、今(2010年)新規規 水計画のめどは立って いないが、建設負担金 多くのダム建設を呼びれ てきた岐阜県、揖斐郡 川町には日本最大の貯水 量を持つ徳山ダム(昨年11月 本社チャーターヘリから、 撮影：野田一郎)

約534億円が県財政 ののしかかる。 徳山ダム建設で、同 ダムの水を長良川と木 曽川に流す木曽川水系 連、愛知県や名古屋 への供給を目的とする への事業だったが、 水余りの昭和50年代以 降は意義が薄れた。 徳山ダム完成後、水 資源機構は「導水路事 業は濁水対策や流量確 保、環境保全(水質)に 一と意義を強調していた が、昨年5月に名古屋 市が導水路事業からの 撤退意思を表明したの

を皮切りに、政権交代 を経て、昨年12月には 国が事業凍結の意思を 決定した。 岐阜大学地域科学部 の宮崎幸一教授(58)「 地理学は「本邦に地 域のたのしさを思えば、30 年前にすべてのダム建 設計画を凍結すべきだ った」と地域の自立に ついて語る。

(ぎふ海流取材班)

10.02.19 岐阜新聞



第3章 断ち切られた川④

「徳山ダムの運用以 と、同ダム運用以前は 来、揖斐川上流の水が 夏場に5度近くあつた 冷たくなった。鮎が小 水温が運用以来、20度 型化しており、悪い影 響が出ている」

揖斐郡揖斐川町の揖 鮎となる藻の状態、川 の石原潤一郎組長の 流れ、前年の子鮎の (54は、同町の徳山ダ ム運用後の川の変化 におり、水温低下だけ に危機感を募らせる。 同町上野の中部電力西 船に変化が生じたのは 平発電所付近で計測し た水温データを見る

徳山ダム 川の変化

水温低下「鮎が小型化」

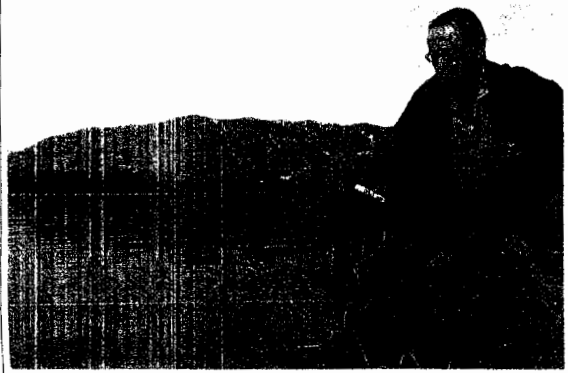
けて石原組会長は近く 水資源機構との協議を 始める。

揖斐川上流で水温が 下がった理由は、徳山 ダムの放流と上流域の 地形が要因とみられ る。同ダムは平常時、 同川下流の大垣市万石 地点で河川流量を毎秒 20ト確保するよう放流 量を調節している。揖 斐川町の岡島橋上流 で西濃用水が農業用 水として毎秒20ト取水 するので、同ダムから 同橋上流区間は夏場の 多い時で毎秒40ト弱の 水が流れ、川幅が狭い 同区間は水位が上がり

水温が上がらなくなっ た。

河川流量を可能な範 囲で自然に近い状態に しようと、水資源機構 は2008(平成20) 年8月から上流の漁 協を対象に「徳山ダム 弾力的な運用検討会」 を開催。鮎漁をする上 流域の漁協は放流量の 抑制を求め、ノリや貝 を養殖する河口近くの 漁協は放流量の増加を 求めて対立が続いてい る。

調整が難航している のは、専業組合員が多 い三重県内漁協の方 が、兼業が多い揖斐川



中部漁協よりも発言力 が強い傾向にあるのも 一因。放流量の抑制を 表現させるには、下流 域の漁協を納得させる 根拠を示す必要がある。石原組会長は「一 間はかかるが疑問を 一つずつ消していけ ば、おのずと放流量の 制限に行き着くはず だ」と確信を持っている。

(ぎふ海流取材班)

揖斐川の水温を計り、 山ダムによる川の変化を 実証する石原潤一郎組長 長川揖斐郡揖斐川町、岡 島橋上流

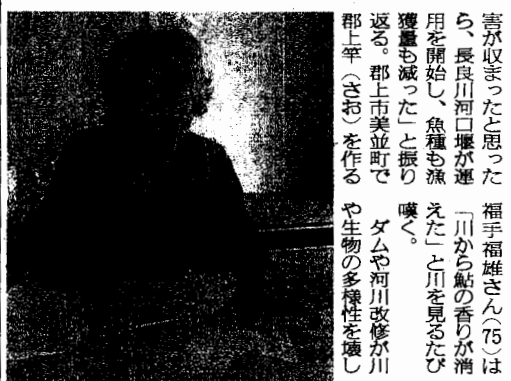


第3章 断ち切られた川①

県内の河川は、戦前 年からの30年にわたり魚 類の生態を調査してき を結び、戦時の食糧難 た魚類研究者の後藤宮 には熱が流域の人々の 命をつなぎ、戦後のダ ム開港では利水と発電 が産業振興の礎となっ た。恩恵を一方的に受 けた結果、川の流れ は断ち切られた。 関市の長良川と津保 川で1967(昭和42)

川の再生、各地でうねり

求められる「劇的転換」



害が収まったと思っ たら、長良川河口堰が運 用を開始し、魚種も漁 獲量も増えた。と振り 返る。郡上市美並町で 郡上平(さむ)を作る

福手福雄さん(75)は 「川から鮎の香りが消 えた」と川を見るたび 嘆く。

ダムや河川改修が川 や生物の多様性を減し たりしている。 長良川(岐阜)の建設 護岸や堰(せき)の建設 が川の姿を変えた。公

は県内各地にも及ぶ。 キマスの産卵観察会を 開く郡上市大和町の長 良川水系・水を守る会 事務局長長崎敏也さん (41)は「ダム建設が一 時的に見直され、川の 環境や水質が改善して も、人の意識が変わら なければ意味がない」と語る。自然のなかか 主体となる補助ダムで は、大島ダム(高山市) と之内ヶ谷ダム(郡上 市)、水無瀬生活貯水池(加茂郡川辺町)の検 証を県に求めている。 川の再生について、 郡上市と岐阜市でサツ

第3章おわり